

一ノ沢から常念岳

2013年4月29日(月) 晴れ

リーダー：和利(記) メンバー：やまたくお、高木

一ノ沢の駐車場は5割程度、6:40出発。

登山届提出時、27日に積雪があったが概ね溶けてズタズタになっている旨と 休憩時は必ず上部を見ながら休むこと、雪崩は何時発生するかわからないから常に上を注意しろとの注意を受けた。

二時間半ほど樹林の中を進み、次第に残雪が増え始め、先程まで流れていた川も見えなくなった。

夏道から河原に下りる頃には完全に雪渓となり、先を行く登山者が蟻のように見える。

左上部には常念岳から前常念岳に続く、尾根が白く輝いている。

ここからは夏道を外れて雪渓歩きとなる。まだ、標高1900m先が長い。

2000m付近でやや左に向きを変え、更に急になる。上から照りつける太陽と下からの照り返しで顔が痛い。

何も考えずひたすらに登る。27日の降雪であろうか30cmほどの新雪で脚を取られて歩きにくい。

最後の50mの急斜面を10歩ずつ進んで常念乗越(2466m)に出た。

乗越に出ると同時に目の前に聳える穂高連峰と槍ヶ岳は一ノ沢ルート醍醐味である。

雪で半分埋まった常念小屋のベンチで一休みして、空身で山頂へ向かった。

風が強くて何度も耐風姿勢を取り、雪渓登りでクタクタの脚を引きずって13:12山頂に立った。

山頂は風も無く穏やかで、ひとしきり展望を楽しんだ。

14:30下山開始。小屋のスタッフが乗越直下の急斜面に階段を刻んでくれていて安心して急斜面を下られる。

スタッフに礼を言って、今刻んだばかりの階段を利用させてもらった。雪渓は朝よりも緩んで脚を取られる。

200mほど下がって、更に尻セードで100m下る。急斜面では半分滑落状態であるが、斜度が緩むととたんに滑らなくなってしまう。

体重(体型)の差なのか私が全然滑らない。やまたくおは気持ちよく落ちていく。そのトレースを利用させてもらって何とか滑走できた。

17:30駐車場着。



駐車場



雪渓取り付き



雪溪上部



山頂より(左から蝶ヶ岳、御岳、乗鞍、前穂)



山頂より(左から前穂、奥穂、北穂、槍)



山頂より(大天井、横通岳)

<タイム> 駐車場6:40～登山口7:10～雪溪取り付き9:40～常念乗越11:20～常念岳2857m13:12～常念乗越
14:30～駐車場17:30

以上